

中学校第3学年「バレーボール～ボールも心もつながろう～」本時案

本時の目標

- サーブレシーブにおいて、落下点への素早い移動と、両腕を伸ばして面をつくり、手首のやや上あたりでボールをとらえ送り出すようにすることが大切であることを理解する。
- トスを上げやすい高さや位置にボールを上げることができる。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆ 評価）
0. ランニング, 準備, 各自ボール慣れ □ゼッケンの着用や各自のボール操作の課題に取り組む。 1. 予備的運動とスキルアップドリル(10分) □予備的運動とスキルアップドリルを行う。 ・レシーブの動き, アタック助走 ・円陣パス, 直上パス 2. 課題への接近(7分) □前時の学習を想起し, 本時の学習課題を確認する。 トスを上げやすいレシーブができるようになるう ○ボールの落下点への移動が少なく, アタッカーの方向に向きを変える時間的な余裕がもてるようにレシーブをすることが大切である。 ・落下点へ素早い移動し, 止まってボールをとらえ送り出すようにすること。 ・両腕を伸ばして面をつくり, 手首のやや上あたりでボールをとらえること。 3. サーブレシーブ練習(10分) □チームで協力してサーブレシーブの練習をする。 ・チーム内で2グループに分かれ4分ずつ練習 ①球出し, 球出しのサポート, セッター役 ②レシーブ役 4. タスクゲーム(20分) □3対3のゲームを行う。 ・前半: 女子対女子(7分) ・後半: 男子対男子(7分) ・サーブはフリーボールかアンダーハンドサービス □観察チームは, サーブレシーブがセッター役に返球できたかどうかを記録する。 5. 本時のまとめ(3分) □本時の学習の成果を確認し, 次時の見通しをもつ。 □グループで協力して, 後片付けを行う。	○「安全に, 迅速に」を意識してできるよう声かけを行う。 ○主運動の動きや技術につながる意義のある運動であることを事前に伝えておき, ポイントを意識して取り組むことができるようにする。 ○キャッチありから, ボレーのみのルールに変更したことで, どのような課題が出てきたかを考えさせる。場合によっては, 前時のゲーム記録を提示し客観的データをもとに把握できるようにする。 ○レシーブのVTRを見せることで, どのような高さや位置が理想的か, どのようにすればできるようになるか具体的なめあてをもつことができるようにする。 ◆アンダーハンドパスの技術ポイントを理解しているか。 ○ボールが上がりにくい生徒に対しては, ひざの曲げ伸ばしを意識するよう指導する。また, 落下点に素早く移動し, 止まってレシーブすることについても触れる。 ◆トスを上げやすい高さや位置にボールを上げることができるか。【運動の技能】 ○指導的評価活動を行い, 即時フィードバック情報を伝えることで, ゲーム中の判断や動き方の修正を促す。 ○サーブレシーブの技能発揮の良し悪しを判断させることで, 「なぜ上手にできているのか(なぜ上手くできないのか)」を何が大切かを認識できるようにする。 ○グループ内でゲーム記録をもとに, うまくレシーブできたときはどのようにしたときか気づきを出させ, 全体でのふり返りの場を設定する。 ○巡視しながら, 用具の片付けを確認する。 ○ふり返りプリントを配布し, ボールのつながり, 心のつながり, わかったことについて記入するよう指示する。

○